

9.
頭道溝

S 1.1.1.0-8 4520

0495

REEL No. A-0076

0395

アジア歴史資料センター

頭道溝

機密通信一九二一號

昭和六年九月二十一日

在頭道溝分館

主任外務書記生 松原久



外務省外務部原喜重郎殿

昭和六年九月二十一日附機密龍第二四八號寫送付

奉天事件之影響之報告ノ件

件名



昭和六年九月廿八日接受

Handwritten signature

S 1.1.1.0-8 4521

0496

龍機密第二四八號

昭和六年九月二十一日

在頭道溝分館主任 松原久 謹

在頭道溝 總領事 岡田兼一 殿

奉天事件ニ因ル影響ニ關シ報告ノ件

一、今次突發セル奉天方面ニ於ケル日支兵衝突事件當地ニ報道セラ
ルヤ内鮮人兩民會長ハ支那側官民惡化ノ懸念アリトシ居留民保護

0497

S 1.1.1.0-8 4522



ノ爲局子街其ノ他間埠各地ノ内鮮人民會長ト步調ヲ揃ヘ此ノ際至急出
兵ヲ要求シ度キ趣ヲ以テ本官ヲ來訪シ本官ノ同意ヲ得度キ旨申出テタ
ルニ付本官ハ目下ノ處當方面ハ極メテ平穩ナルニ付此ノ際慌テ、出兵
ヲ要求スルカ如キハ考ヘモノナリト種々説明ヲ加ヘ引取ラシメタルカ
鮮人間ニハ各團體ノ名義ヲ以テ出兵要求ノ電報發出方寄々協議シ居ル
趣聞込ミモアリ本二十一日鮮人民會長ヲ呼出シ在留鮮人ノ行動ニ付注
意セシムルト共ニ此ノ際在留鮮人ハ充分自重シ支那側ヲ挑發スルカ如
キ行動ニ出テサル様申聞ケ置ケリ

二、本二十一日日本官第一營長吳連明及商埠公安局長曹明倫ヲ往訪シ（商埠
局長ハ目下局子街ニ旅行シ不在）大臣發在支公使宛訓令ノ趣旨ニ基キ
奉天事件ニ付一應説明ヲ加ヘ當地在住内鮮人ニ對スル報復的行動ノ取

締方並在留民保護ニ付適切ナル措置ヲ執ラレ度キ旨申入レタル處何レ
モ快諾シ當地ニ關スル限り嚴重警戒シ何等事項ノ發生セサル様取計フ
ヘキ旨言明セリ

右報告申進ス

本信寫送付先

外務大臣 局子街 百草溝 春

S 1.1.1.0-8 4524

0499

S 1.1.1.0-8 4523

0498

REEL No. A-0076

アジア歴史資料センター

亞細亞局
機密公傳一九九號

昭和六年九月二十五日

在頭道溝分館

主任外務書記生 松原久



昭和六年拾月貳日 接受

別紙添附

0500

外務大臣易將幣原喜重郎殿

昭和六年九月二十五日附龍橋券 第三五三號寫送付

在頭道溝分館主任

件名

時局ニ關スル商埠局長ノ談話要領報告ノ件

龍機密第二五三號

昭和六年九月二十五日

在頭道溝
分館主任 松原久 謹

在問島
總領事 岡田兼一 殿

時局ニ關スル商埠局長ノ談話要領報告ノ件

赴局中ナリシ當地商埠局長劉萬輝ハ兩三日前歸來本二十五日本官ヲ來
訪シ時局ニ關シ懇談シタルカ談話要領左ノ如シ

0501

S 1.1.1.0-8

4526

S 1.1.1.0-8

4525

今次ノ奉天方面ノ日支兵衝突事件ハ全ク突然ニシテ事前ニ何等知ルニ由
ナク事件後モ通信機關不完全ニシテ民聲報ニ依リ僅ニ之ヲ承知シ居ルニ
過キス殊ニ教化樺甸方面ノ消息ハ三日前途ハ局子街ニモ傳ハリ居タルカ
同地モ既ニ日本軍ノ爲占領セラレタル趣ニテ同方面ノ消息全ク不明ナリ
日本ハ間島ヘモ出兵スル様噂專ラナルカ事實ナリヤ果シテ出兵スルトス
レハ當方面ハ忽チ戰場ト化スヘク憂慮ニ堪ヘス尤在留日本人ノ生命財産
ノ保護方ニ付テハ上司ヨリモ嚴重訓令アルニ付當地方ニ於ケル治安維持
並ニ日本人ノ保護ハ中國側ニ於テ責任ヲ以テ當ル積リナリ云々
依テ本官ハ本事件發生以來日本政府ハ事件ノ極大防止ト在本邦中國人ノ
保護ニ付極力有礙ノ措置ヲ講シ居ル次第並滿鐵沿線ニ於ケル軍事行動ト
間島出兵トハ何等關係ナキ所以ヲ説明シ日本政府トシテハ今次ノ事件ノ

S 1.1.1.0-8

4527

0502

爲當方面ニ出兵スルカ如キコトハ斷シテ之無カルヘキ旨答ヘ置キタリ
尙當地在留邦人ノ保護方ニ付テハ大臣訓令ノ次第モアリ中國側ト密接ナ
ル聯絡ヲ執リ善處ニ努メ居レリ
右報告ス

本信寫送付先

外務大臣 局子街 珥春 百草溝

S 1.1.1.0-8

4528

0502

寫送先

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 會計

大臣 次官

電信課長

分類 1.1.1.0.21-1

昭和7 二一七一七 略 頭道溝 本省 九月廿九日後着 廿九日後發

内田外務大臣 松原主任

第一一號

貴電第九號ニ關シ

一、十月中旬復歸見込ノ者吳橋妻、關口妻、子女一、岩井妻、子女二、佐藤妻、子女一、崔錫忠妻、子女三（以上二道溝）

二、當分當地ニ避難滞在見込ノ者松尾妻、子女六、夏梅妻、子女三（以上三道溝）

S 1.1.1.0-8

4530

0504

外務省

寫送先

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 會計

大臣 次官

電信課長

分類 1.1.1.0.21-1

昭和6 一七三五四 暗 頭道溝 本省 十月廿六日後着 廿六日前發

幣原外務大臣 松原主任

第八號

奉天宛貴電第二五九號第二六三號及第二七九號ニ關シ

當館管内取調ノ結果今日迄本件該當事項ナシ

S 1.1.1.0-8

4529

0503

外務省

滿洲日軍衝突事關關係一件 在番邦人係及引揚子係

記録

A.1.1.0 21-1-1

東亞局

公普通第一三一號

昭和九年七月二十一日

昭和九年八月十日
附屬添附

在頭道溝
分館事務取扱 淺羽傳



外務大臣 廣田弘毅 殿

事變ニ因ル居留民ノ引揚及避難並要救護者
等調査方ノ件

本件ニ關シ當館管内六月分調査表別紙ノ通此段報告申進ス
追テ第二號表ハ該當事項無之ニ付申添フ

本信寫送付先 在滿大使 問島總領事

第二課

手記
保護引揚遊



S 1.1.1.0-8

4531

0505



記

録

11.021-1

東亞局

公普通第一六〇號

昭和九年十月十二日

附屬添附

第二課

昭和九年拾月拾八日

在頭道溝
分館事務取扱
淺羽傳

東亞局
9.10.18
第二課

外務大臣 廣田 弘毅 殿

在頭道溝
分館事務取扱
淺羽 傳



事變ニ因ル居留民ノ引揚及避難並要救護者等調査方ノ件

本件ニ關シ當館管内九月分調査表別紙ノ通此段報告申進ス

追テ第二號表ハ該當事項無之ニ付申添フ

本信寫送付先

在滿大使 間島總領事

0507

4534

8 1.1.1.0-8

記録

東亞局
公普通第一四八號
昭和九年九月七日

在頭道溝
分館事務取扱 淺羽傳六

外務大臣 廣田弘毅 殿

事變ニ因ル居留民ノ引揚及避難並要救護者等
調査方ノ件

本件ニ關シ當館管内八月分調査表別紙ノ通此段報告申進ス
追テ第二號表ハ該當事項無之ニ付申添フ

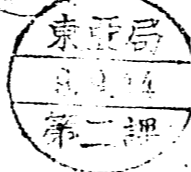
本信寫送付先 在滿大使 間島總領事

別紙添附

S 1.1.1.0-8

4538

0510



記録

東亞局
公普通第三號
昭和十年一月七日

在頭道溝
分館事務取扱 淺羽傳六

外務大臣 廣田弘毅 殿

事變ニ因ル居留民ノ引揚及避難並要救護者等
調査方ノ件

本件ニ關シ客年十二月中當館管内ニ於テハ該當事項無之ニ付此段報告申進ス

本信寫送付先 在滿大使 間島總領事

別紙添附

S 1.1.1.0-8

4537

0509



参考

發電昭和六年十月十日

在滿居留民引揚數及要救濟者數等調査方ノ件

在奉天 林總領事宛

幣原大臣

暗第二五九號 至急

貴管内在留民中（鮮人ヲ含ム）今次事變ノ結果引揚、現地避難其他ノ事由ニヨリ生活困難ニ陥レル者並他管内在留民中貴地ニ避難シ收容保護ヲ加ヘラレ又ハ現ニ保護中ノ者ニ對シ救護ヲ行フノ必要起ルヘキヲ豫想シ當方ノ準備上參考トシタキニ付十月十日現在ニ於ケル左記事項調査至急回電アリ度尙以後ノ分ニ付テモ隨時追報アリ度

（一）貴管内在留民中

（二）事變發生以來他地へ引揚タルモノ（引揚先記入ノコト）

9.12 S 1.1.1.0-8 4542 0513

外務省

（分發門ノ項ノ目録）-1-1

公普通第一八號

昭和十年二月五日

在頭道溝

分館事務取扱 淺羽傳

外務大臣 廣田弘毅 殿

事變ニ因ル居留民ノ引揚及避難並要救護者等調査方ノ件

本件ニ關シ一月中當館管内ニ於テハ該當事項無之ニ付此段報告申進ス

本信寫送付先

在滿大使 間島總領事

S 1.1.1.0-8 4541 0512

東亞局

第二課

記録係
 在頭道溝
 居留民引揚及避難並要救護者等調査方ノ件
 昭和十年二月五日
 浅羽傳

昭和十年二月五日

B1

(ロ) 現地ニ於テ安全地帯へ收容集團的保護ヲ受ケタルモノ
ノ兩者ニ付成年男子及婦女子ノ別及數並館員ノ家族、俸給生活
者及其ノ家族等救護ヲ要セスト認メラル者ヲ控除シタル殘余
ノ者ニ付男女別數並家族關係（一）世帯主ニ家族ニ付（イ）同居ノ妻
（ロ）十二才以上（ハ）十二才未滿四才以上（ニ）四才未滿ニ雇人ノ各項ニ
分チ員數記入ノコト）

(二) 他管内在留民中貴地ニ避難滞在シ居ルモノニ付前項同斷（原居留
地別々）

(三) 今後鮮人ノ貴地ヨリ又ハ貴地へ引揚クヘキ者ニ對スル大体ノ見當
（四）居留民殊ニ鮮人保護ニ關シ貴館ニ於テ既ニ支出シ又ハ差當リ必要
ナル費用概算

は(イ)

0.12 4543 0514
S 1.1.1.0-8

外務省

(五) 鮮人ノ救護ニ關シ内地人ト同様ニ措置シ得サル事情アル場合ニハ
別ニ講スヘキ方法

(六) 其他參考トナルヘキ事項

訓令トシテ在滿各公館ニ可然方法ニヨリ轉電アリ度

(以上)

は(イ)

0.12 4544 0515

外務省



發電昭和六年十月十日

在滿居留民引揚數及要救濟者數等調查方ノ件

在奉天 林總領事宛

幣原大臣

暗第二五九號 至急

貴管内在留民中（鮮人ヲ含ム）今次事變ノ結果引揚、現地避難其他ノ事由ニヨリ生活困難ニ陥レル者並他管内在留民中貴地ニ避難シ收容保護ヲ加ヘラレ又ハ現ニ保護中ノ者ニ對シ救護ヲ行フノ必要起ルヘキヲ豫想シ當方ノ準備上參考トシタキニ付十月十日現在ニ於ケル左記事項調査至急回電アリ度尙以後ノ分ニ付テモ隨時追報アリ度

(一) 貴管内在留民中

(二) 事變發生以來他地へ引揚タルモノ（引揚先記入ノコト）

外務省

0516

4545

S 1.1.1.0-8

9.12

(一) 現地ニ於テ安全地帯へ收容集團的保護ヲ受ケタルモノ

ノ兩者ニ付成年男子及婦女子ノ別及數並館員ノ家族、俸給生活者及其ノ家族等救護ヲ要セスト認メラルル者ヲ排除シタル殘余ノ者ニ付男女別數並家族關係（世帯主ニ家族ニ付同居ノ妻

(二) 十二才以上(一)十二才未滿四才以上(二)四才未滿ニ雇人ノ各項ニ分チ員數記入ノコト

(三) 他管内在留民中貴地ニ避難滞在シ居ルモノニ付前項同斷（原居留地別々）

(四) 今後鮮人ノ貴地ヨリ又ハ貴地へ引揚クヘキ者ニ對スル大体ノ見當

(五) 居留民殊ニ鮮人保護ニ關シ貴館ニ於テ既ニ支出シ又ハ差當リ必要ナル費用概算

外務省

0517

4546

S 1.1.1.0-8

9.12

切
取
消
し
の
旨
を
示
す

記録

東亞局

機密第三三號

昭和十年二月七日

在延吉

副領事

田

中

作



外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

事變ニ因ル居留民ノ引揚及避難並要救護者
等調査方ノ件

昭和十年一月 中當館受持區域内本件該當事項ナシ

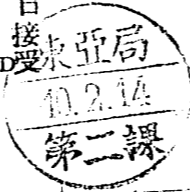
右報告ス

本信寫送付先 在滿大使、間島總領事

在間島日本總領事館延吉分館

第二課

昭和拾年貳月拾四日接受



S 1.1.1.0-8

4548

0519

外務省

（五）鮮人ノ救護ニ關シ内地人ト同様ニ措置シ得サル事情アル場合ニハ
別ニ講スヘキ方法
（六）其他參考トナルヘキ事項
訓令トシテ在滿各公館ニ可然方法ニヨリ轉電アリ度
（以上）

9.12

S 1.1.1.0-8

4547

0518